

フィールドワークのお話

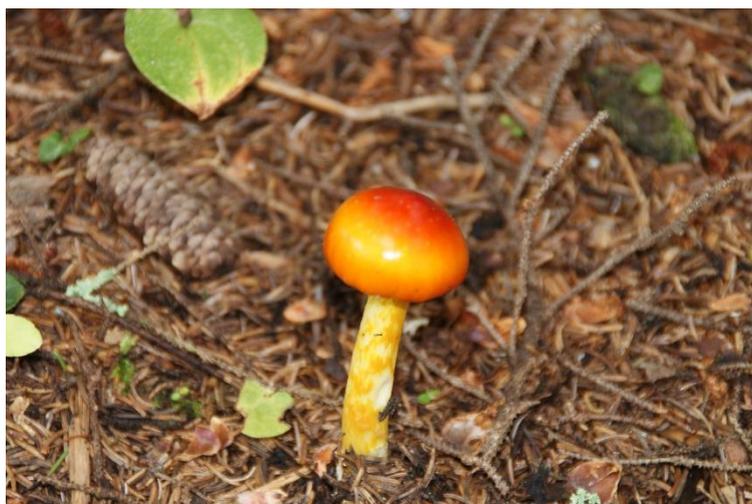
先週末、あん Do は北海道でフィールドワークをしてきました。千歳や羊蹄山^{ようていざん}周辺などでキノコのサンプルを探して山や森を歩き回り、久しぶりに運動量の多い日々でした。ダイエットにもなったかなー（と、言いつつ夜はしっかりと飲み食いしてしまっているのですが…）

自然観察のためのフィールドワークは、夏休みの宿題のための昆虫採集なども含まれるため、なじみのある人も多いのではないかと思います。海岸で貝を拾ったりするのは好きだけど、山は虫が多いから苦手、という人もいるでしょう。

今回は、キノコ（特に本州ではあまり見られないキノコ）を目指していたので、トドマツやアカエゾマツなどの針葉樹林を、下草をかき分けながら歩き回るスタイルでした。土日には、札幌キノコの会の勉強会にも同行させてもらったので、多人数で採取したものをを見せていただく機会もありました。数人ですが小中学生も参加していて、解説にも熱心に聞き入っていました。

一言で採取といっても、「食べられればそれで良い」というレベルから、「図鑑にのせるような写真とセットで、DNA サンプルが取れる乾燥標本にする」というレベルまで様々です。

もちろん学術的な研究を行おうと思えば、後者を目指すしかないのですが、そうなるとカメラなどの機材にも投資しなければいけないため、ハードルはかなり上がります。また、対象そのものも状態の良いものを探さなければならず、一部食べられてしまっているとか、雨に打たれて汚れてしまっている、というものは避けることになるため、満足できるサンプルに出会える確率は低くなります。



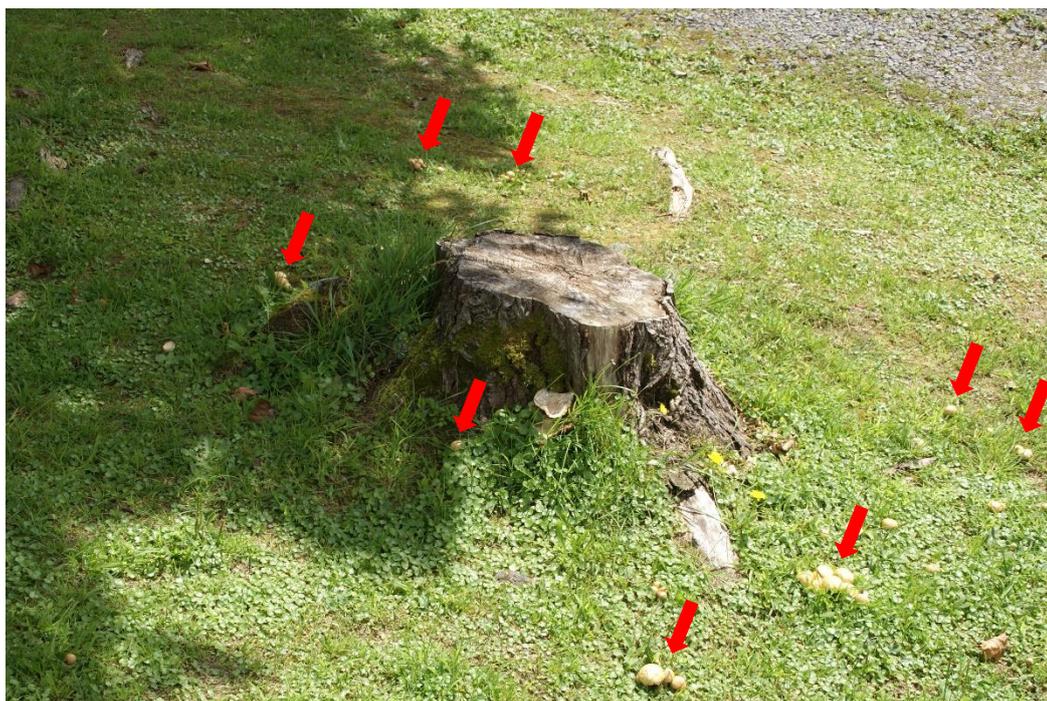
タマゴタケ。真っ赤なので毒キノコと思われがちですが、食べられるキノコです。見た目もかわいいので人気があるキノコの一つですね。

今回あん Do が撮ってきた写真は、素人の記念写真の域を出ていませんが、サンプルそのものは全部で 30 サンプルぐらいは採取することができました。初めて見るキノコもあり、なかなか楽しいフィールドワークでした。

今年の夏休みの宿題はとっくに終わっているでしょうから（まさか今からなんて人はいませんよね）、これから遠出をしてフィールドワークに行く、という人はそれほどいないと思いますが、秋には秋の、冬には冬の多様な生物を見ることができます。

以前も書きましたが、道端の草花や昆虫の変化を追うだけでも立派なフィールドワークになります。せっかく四季の変化が豊かな国に暮らしているのですから、家の中の勉強だけではなく、外にもどんどん目を向けて見てください。まずは「変化に気づく」ことからです。

22/9/7 あん Do



名前が判明しなかったキノコのきのりん菌輪。切り株のまわりを取り囲むようにキノコが並んでいます。日が当たっているので写真では少しわかりにくくなっていますが、大小 20 個ほどもあり、見つけたときは「おおっ」となりました。